

**「琴浦自分ごと化会議」からの提案
～持続可能な地域交通のあり方～**

令和3年2月25日

「琴浦自分ごと化会議」委員一同

目次：

1. はじめに	2 P
2. 琴浦自分ごと化会議の概要	3 P
3. 「琴浦自分ごと化会議」からの4つの提案	7 P
4. 付録：アンケート結果	18 P

～ はじめに～

私たちは、2020年10月から2021年2月まで、4回にわたって「琴浦自分ごと化会議」の委員として、「持続可能な地域交通のあり方」について話し合ってきました。この提案書は、これまでの議論を4つの提案にまとめたものです。

この会議の大きな特徴は、住民基本台帳から無作為に選ばれた町民が議論したことだと思います。これまで、公共交通について考える会議であれば、利用者や交通事業者などの関係団体が集まり、議論を行う場が多かったと思いますが、今回の委員の中には、日頃からご自身で公共交通を利用される方だけでなく、スクールバスを利用されている方や、自家用車を利用しており公共交通は全く利用していない方など様々な方がおられました。

初めは町民それぞれが地域交通について抱えている不安や、行政の取組の中で課題だと感じていることを中心に話し合いましたが、会議が進む中で「交通」「人の移動」を切り口とし、町民の生活をより良くするためにはどうしたらいいのか、私たちにできることはないかと「琴浦町全体」のことを考え、前向きな意見が飛び交う活発な議論になりました。

全体の議論を通して、今後の地域交通のあり方を考えるために、琴浦町民の移動ニーズの本質を把握すること、また将来にわたって住みやすい琴浦町を維持できるような共助交通の仕組みを整えること、そしてそのために我々町民一人一人ができることは何か、という視点で話し合いを重ねてきました。

また、このような場で、様々な意見に触れ、まさに“自分ごと”として考えることの大切さに気づくなど、非常に有意義な場であったと感じています。参加者アンケートの満足度が高いことも、これを表しているのではないのでしょうか。

今後も、自分ごと化会議をはじめとして行政と町民が対話できる場が増えることが、さらに住民満足度の高い琴浦町になると感じています。

今回の4つの提案や自分ごと化会議の議論の内容を、町が今後策定する「公共交通再編計画」に反映していただければと思います。今回関わった私たちも地域交通の動向を注目し、できるところから協力をし、また、自分たちでできることを積み重ねていきたいと思っています。これからの琴浦町の動きに期待をしています。

令和3年2月
「琴浦自分ごと化会議」委員一同

2. 琴浦自分ごと化会議の概要

テーマ： 町民と考える持続可能な地域交通のあり方について

主催： 琴浦町

協力： 構想日本

会議参加者

自分ごと化会議委員	合計 18 人 ・無作為抽出町民 12 人（住民基本台帳より無作為に選ばれた 1000 人の中から応募のあった琴浦町民） ・中山間地域にお住まいの町民 4 名（古布庄、上郷、以西、安田地域） ・スクールバスを利用されている町民 2 名（聖郷小、船上小 P T A）
コーディネーター	熊井 成和 氏（千葉県鴨川市政策参与、構想日本特別研究員）
オブザーバー （第 2 回のみ）	交通事業者の立場でバス・タクシー事業の現状について説明する役割 バス事業者 徳丸 淳史 氏（日ノ丸自動車(株)倉吉営業所 所長） タクシー事業者 岩田 基志 氏（日本交通(株) 顧問）
ナビゲーター （第 3 回のみ）	専門家の立場で議論に刺激を与える役割 中山 哲志 氏（福岡県大刀洗町 町長）

事務局

琴浦町	地域の現状や、テーマに関する行政の取組みなどを説明する役割 企画政策課、教育総務課
-----	--

各回会議概要

日 時	内 容
第 1 回 令和 2 年 10 月 25 日（日）	・自分ごと化会議の概要説明（構想日本） ・テーマに関する説明（事務局） ・委員の自己紹介 など
第 2 回 令和 2 年 11 月 21 日（土）	・町の交通事業の説明及び交通事業者による説明 ・テーマについて全体で議論 ・「改善提案シート」の記入 など
第 3 回 令和 2 年 12 月 13 日（日）	・「中間とりまとめ」やテーマについての議論 ・「改善提案シート」の記入、ナビゲーターの参加 など
第 4 回 令和 3 年 2 月 6 日（土）	・「琴浦自分ごと化会議からの提案（案）」について議論 など

会議の開催にあたって

(1) 自分ごと化会議の趣旨・テーマ

自分ごと化会議は、地域が抱える様々な課題について現状を共有し、町民自らが「自分のこと」として考え、話し合うことで、課題に対する解決策を考えることを目的としています。

今回は、町の大きな課題である「地域交通」をテーマに、将来の地域交通のあり方について町民と考えます。具体的には、①町営バス、スクールバス、タクシーといった公共交通だけでなく、共助交通（助け合いによる交通）も含めた地域の移動や、②町公共交通再編計画案（令和4年4月開始予定）の内容などについて協議を行いました。

町は本提案書の内容を踏まえ、公共交通再編計画案に意見を反映させていきます。

(2) 地域交通に関する現状と課題等

会議を始めるにあたって、地域交通（町営バス、スクールバス、タクシーなど）の現状と課題、また共助交通の広がりについて、委員に共有されましたので一部紹介します。

※詳細は第1回配布資料「琴浦町の交通の現状」を参照

地域交通の現状と課題

- 町が公共交通として所有するバス車両は、町営バス6台、スクールバス4台の計10台である。
- 町営バスについては、全体的な人口減少などの理由に利用者が減り、それに伴い運賃収入も減少傾向にある。特に朝と夕方の便は、通勤・通学による一定数の利用はあるが、日中の便は利用者が少なく、空車で運行することも多くなっている。
- 町営バス・スクールバスともに委託事業者の変更などを受けて、運行委託料が増加している。
- タクシーは、日本交通（株）が計7台の車両を所有しているが、ローテーション勤務で運行しており、実際の稼働は、日中で2～3台、夜間で1～2台である。日中の主な利用者は高齢者であり、夜は飲食店で利用する一般客が中心である。また、町内タクシー事業は赤字が続いており、乗務員の高齢化も進む中、事業縮小の傾向にある。この状況が続けば、事業継続が困難となる可能性がある。
- 交通の担い手である運転手不足は全国的な課題であるが、琴浦町内の事業者においても、確保に難航している実態がある。
- 運転手不足、利用者の減少、町の財政負担増加が重なるなか、現在の地域交通の形態を今後も維持していくことは非常に困難であるため、スクールバスと町営バスの統合や、需要に応じた効率的なルート運行、経費削減と利用料金の見直しによる収支改善、共助交通（地域住民同士の助け合いによる交通）の活用など安定的な運行体制を検討する必要がある。

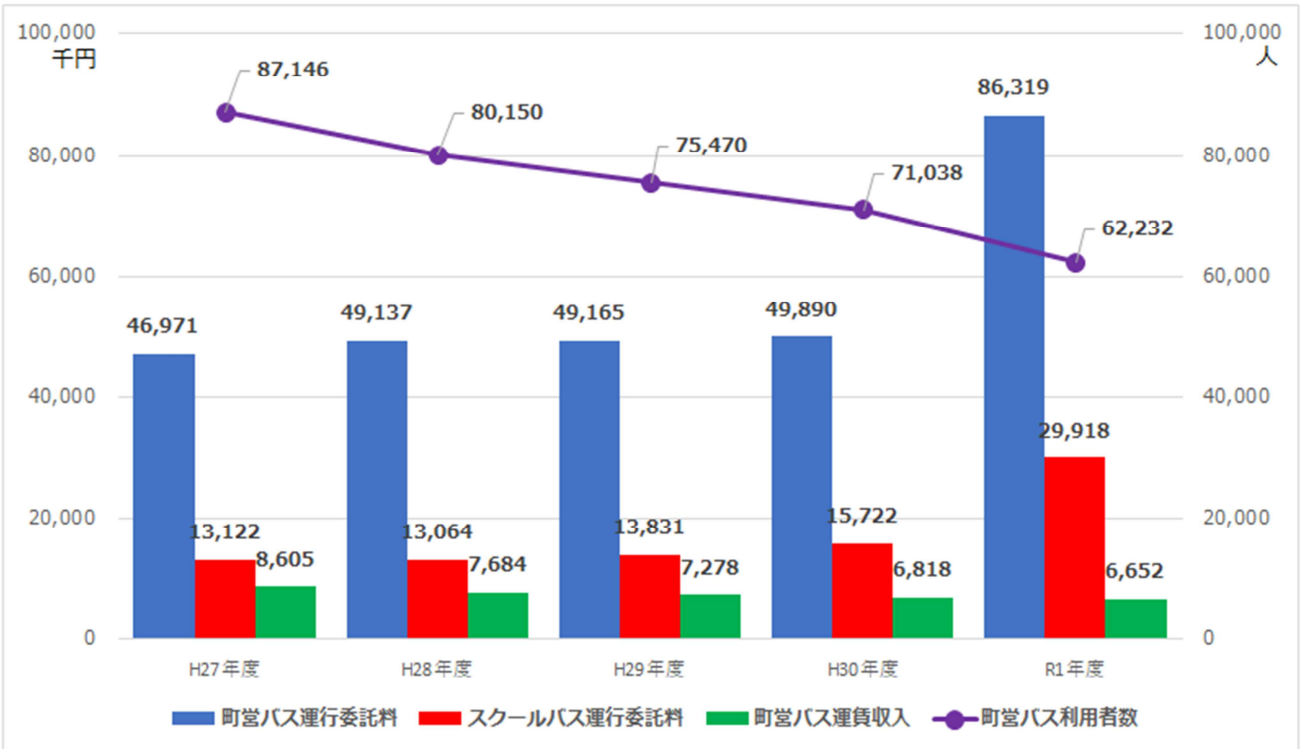
共助交通について

- 共助交通は、地域住民がドライバーとなり、地域で移動を支え合う仕組みとして、全国各地で取り組まれている。
- 琴浦町では、安田・成美地区（一部）及び赤碕駅周辺で、住民の移動支援を目的に、ボランティアドライバーが町の車両を使って送迎を行う「助け合い交通ことうら」の実証実験を行った。（令和2年11月から2か月間）

参考①：町営バス・スクールバス運行ルートと公共交通空白地



参考②：町営バス・スクールバス運行費用と町営バス利用者の推移



参考③：「助け合い交通ことうら」実証実験



3. 「琴浦自分ごと化会議」からの 4つの提案

「会議の開催にあたって」（本提案書4頁）に記載の通り、琴浦町では、現在の地域交通の形態を今後も維持していくことは非常に困難で、スクールバスと町営バスの統合や、需要に応じた効率的なルート運行、共助交通（地域住民同士の助け合いによる交通）の活用など安定的な運行体制を検討する必要がある状況です。

以下4つの提案（方向性）は、このような地域交通の現状と課題を踏まえ、私たち琴浦自分ごと化会議委員がこれまで議論してきたことや「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。4つの提案では、琴浦自分ごと化会議委員全体が合意した具体的な提案項目と私たち町民、地域、行政、その他（民間等）の取組みを記載しています。

また、今回の自分ごと化会議では、「各委員の立場や考え方の違いなど様々な面で、賛否両論があった」意見など「全体の意見」としてまとまらなかった「各委員の個別意見」については、別冊にまとめています。

【生活を守る移動手段確保の視点】

提案1

琴浦町民の移動のニーズ（実情）の把握を行い、日常生活に必要な交通手段の確保が困難な町民を支える。

項目①：町民の移動手段や地域の実情の把握を行う

項目②：民間事業者や医療機関と連携し、移動販売・在宅医療の充実等を図る

提案2

「町民の生活を支えるためには、どのような移動手段を確保する必要があるのか」の視点から、今後の公共交通のあり方を再検討する。

項目①：現在の公共交通をどのように利用し維持させるかを検討する

項目②：公共交通を維持するコストを減らす

項目③：公共交通の担い手（ドライバー）を確保する

項目④：路線バスとスクールバスの効果的な活用を行う

提案3

将来にわたって移動手段を確保できるよう、地域と行政が連携し、町内の各エリアに合った共助交通を検討する。

項目①：地域で移動を支え合う「共助交通」を検討する

【全体的なまちづくりの視点】

提案4

暮らしを助け合える元気な地域をみんなで作っていく。

項目①：助け合える地域づくり

1. 琴浦町民の移動手段のニーズ（実情）把握を行い、日常生活に必要な交通手段の確保が困難な町民を支える。

項目①：町民の移動手段や地域の実情の把握を行う

これからの「持続可能な地域交通のあり方」を考えていくために、琴浦町民の移動の実態や今後の移動ニーズを把握すると共に、地域の特性に応じた地域交通を考えられるよう地域の実情を知ることが必要になる。

▶町民・地域・行政・民間等の取組み

私たち町民

- ① 町が実施するアンケートに回答する。
- ② 意見交換を行う場に参加し、意見を述べる。

地域

- ① 町が実施したアンケート結果をもとに、意見交換を行う。
- ② 意見交換をもとに、各地域の実情を整理する。

行政

- ① 地域交通の現状・課題や今後の方向性を、公共交通の利用者数やコスト（人件費や委託費等）等の情報と併せて、町民に周知する。その上で、住民を対象に、今後の地域交通のあり方や必要性に関するアンケート調査を行う。
- ② アンケート結果は、地域別・年代別に集計や分析を行い、地域に共有する。
- ③ 町民が意見交換を行う場を設ける。

項目②：民間事業者や医療機関と連携し、移動販売・在宅医療の充実等を図る

琴浦町でも高齢化が進む中で、運転に不安を感じ、免許を自主返納される町民が多くいるなど、自動車を運転できない町民（主に高齢者）や、駅やバス停が近くにない（交通空白地）町民が増えており、そうした町民の生活（買い物や医療、福祉など日常生活に不可欠なもの）を守る必要がある。また、民間や医療機関と連携し、移動販売や在宅医療などの充実を図る。

▶町民・地域・行政・民間等の取組み

私たち町民

- ① 通院回数を減らすため、健康管理を行い、病気にならない体づくりを行う。
- ② 移動が困難な町民のニーズを聞きとり、代理で買い物や配達を行う。
- ③ 移動販売を活用する。
- ④ 移動販売を周知する。

地域

- ① 移動販売車や医療関係車両の停止位置を確保する。
- ② 往診や薬局での郵送受取システムなどを確保する。
- ③ 民間事業者に、地域にある既存施設（旧小学校など）を停車位置として、移動販売を行うよう依頼する。
- ④ 移動販売、共同販売などを行う。

行政

- ① 地域で高齢者が集まっている場へ出向き、各種行政手続きのニーズに応えるなどの出張サービスを行う。（「まちづくりセンター（仮称）」等）
- ② 民間事業者の参入を促すために補助金を交付する。（移動販売車の購入費や改修費など）
- ③ 看護師、保健師等に、定期的に各部落に行ってもらい、保健管理の補助やアドバイスを行う。（健康な体作りを促す）
- ④ 送迎を行う病院・医院へ、送迎車の維持経費に関する補助を行う。

その他 （民間等）

- ① まちづくりセンター（仮称）等で、カフェや食堂を運営する。
- ② ネット注文と御用聞きの併用制度を構築する。
- ③ リモートでの在宅医療を構築する。

- 「町民の生活を支えるためには、どのような移動手段を確保する
2. 必要があるのか」の視点から、今後の公共交通のあり方を再検討する。

項目 1：現在の公共交通をどのように利用し維持させるかを検討する

町営バスの利用者は5年間（平成26年度から平成31年度）で約8万7千人から6万2千人と減少している。今後も全体的な人口減少により、バスやタクシーの利用者は少なくなる見込みである。そこで、どのような町民の移動が必要とされているのかの実態把握（提案1項目①）を踏まえて、現在の公共交通をどのように利用し維持させるかについて検討する。具体的には、バスやタクシーの運用方法を再検討し、ルートの見直しや、各事業者の採算性向上にむけた仕組みの検討、公共交通に係る制度の周知などに取り組む。

▶町民・地域・行政・民間等の取組み

私たち町民

- ① なるべく、町営バスやタクシーを利用する。
- ② 町営バスやタクシー利用だけでなく、民間の移動販売車や送迎サービスの利用など、必要に応じて、幅広い選択肢から移動手段を選ぶことも考える。

地域

【町営バス】

- ① 住民や各地域の代表・区長・民生委員などと一緒に、バス利用について協議する。

【公共交通全般】

- ② 集落内で、交通に対する支援制度を周知する。

行政

【町営バス】

- ① バス路線のマップを作成する。（利用区間の料金表示など盛り込む）
- ② 利便性を良くするため、運行時刻・便数・料金等の見直しを行う。
- ③ バス利用料に対する予算的配慮を行う。（小中学校に通う児童や生徒、町内から通学する学生の親権者へ路線バス利用料金を補助など）
- ④ バスが時間通りに運行されているかを把握するため、スマホ用のアプリの開発と提供や、町民向け研修会を実施する。
- ⑤ バスを利用するとポイントがもらえるシステムを構築する。（地域通貨発行など）

【タクシー】

- ⑥ 交通空白地域では、タクシー利用を促す。
- ⑦ 財政的支援の目的や対象を明確にし、タクシー利用に関する補助を行う。（高齢者や体が不自由な方の通院手段確保などの観点）

【公共交通全般】

- ⑧ 利用者のために、公共交通を維持する。

【バス会社等】

- ① バス路線や時間帯を見直す。
- ② スマホ用のアプリを開発・提供する。
- ③ バスの仕様をバリアフリー化する。

【タクシー会社】

- ④ 確実に、透析患者などの移動を確保する。
- ⑤ 利用時間を拡大する。
- ⑥ タクシーの車種や乗務員を充実する。
- ⑦ 利用区間に応じた料金表やサービス内容の表示を行う。
- ⑧ 料金設定をふまえて、乗合タクシー導入を検討する。

【医療機関及び高齢者介護施設】

- ⑨ タクシー会社に、通院者や施設利用者の利用予定日等の情報提供を行う。

【スーパー・ホームセンター・商店・飲食店等】

- ⑩ バス・タクシー等の公共交通機関のPRをする。（連絡先や時刻表等の掲示）

その他 (民間等)

項目 2 : 公共交通を維持するコストを減らす

町営バスとタクシーは、どちらも利用者数の減少に伴って運賃収入は減少しており、また町営バスについては運営するための経費が年々高まるなど、これまでと同じような公共交通の形態を維持することが、非常に困難な状況である。今後は公共交通を維持するためのコストを減らしていく取組みを検討する必要がある。ただしコストを減らすことで、利用者の安全が損なわれないように十分考慮する。

▶町民・地域・行政・民間等の取組み

私たち町民

- ① 少し運賃が上がっても理解する。
- ② 協議の場へ参加し、意見を述べる。
- ③ 遠距離から通学する子どもを安全に確保することを協議して考える。

行政

- ① 競争入札（公募）して、業者選定する。（町内限定不要）
- ② 利用状況などをふまえて、町営バスの運行ダイヤを見直し、コスト（委託料等）を減らす。
- ③ 財政的には負担であるが、安全に子どもが通学できる方法を考える。

項目 3 : 公共交通の担い手（ドライバー）を確保する

平成 30 年度に、それまで町営バスを運行していた交通事業者がドライバー不足を理由に、事業撤退となり、その後は異業種参入などにより何とかバスの運行を確保してきた実情がある。公共交通を担う運転手不足は全国的な課題であり、琴浦町においても、公共交通事業を維持するため、担い手確保に取り組む。

▶町民・地域・行政・民間等の取組み

私たち町民

- ① 声掛けを行う。

地域

- ① 声掛けを行う。

行政

- ① 公共交通のドライバーとして運転可能な人数を把握し、高齢者を中心とした人材を確保する。
- ② 2 種免許取得への援助を行い、公共交通のドライバーとなりうる人材を確保する。

その他 (民間等)

【バス会社等】

- ① ドライバーの募集を行う。
- ② ドライバーへの報酬を増やす。

項目4：路線バスとスクールバスの効果的な活用を行う

自分ごと化会議の議論の中では、「路線バスとスクールバスの統合による効率的運行」に賛同する意見もある一方で、「児童の通学安全確保の観点」から、混乗を不安視する意見もあった。路線バスとスクールバスを効果的に活用するにあたっては、「児童の通学安全の確保」と「バスの効率的運行」の両観点から検討し、取組みを進める。

▶町民・地域・行政・民間等の取組み

私たち町民 ① スクールバスの必要性を理解する。

地域

- ① スクールバスの必要性を理解する場を設ける。
- ② 時間のある人は、子どもの通学を見守る。

行政

- ① 生徒の安全確保のため、教育委員会が責任をもって、スクールバスを運行する。
- ② 町が、スクールバスのドライバーを確保する。（必要に応じて講習）
- ③ 将来の児童数などを想定しながら、運行のあり方や路線バスとスクールバスの効果的な活用方法について協議する。

3. 将来にわたって移動手段を確保できるよう、地域と行政が連携し、町内の各エリアに合った共助交通を検討する。

項目 1：地域で移動を支え合う「共助交通」を検討する

町民の日々の暮らしに必要な移動（通学・通勤・通院・買い物など）を、今後も確保するためには、「公共交通」だけでなく、地域で移動を支え合う「共助交通」も重要な取組みであると考えている。

町内のエリアごとに、地域が主体となって、どのような「共助交通」が必要なのか、そのめざす姿を、行政と一緒に話し合い、地域の実情に合った検討が必要である。検討にあたっては、他市町村の事例や琴浦町内で行われた「助け合い交通ことうら」（本提案書 5 頁参照）などを十分に参考とする。

（参考） 第 3 回会議では、福岡県大刀洗町の中山町長から、共助交通「たちあらい巡回バス」の話題提供があった。公共交通空白地域にお住いの住民の「日常生活における移動手段の確保」を目的としており、行き先や停留場所、時間帯なども住民自ら設定するというユニークな取組みである。（第 3 回配布資料「大刀洗町の公共交通」参照）
 こういった参考事例は、私たちが活発に議論を行うきっかけとなった。

▶町民・地域・行政・民間等の取組み

私たち町民 ① 共助交通について話し合う場に参加し、意見を述べる。

地域

- ① NPO、自治会や地域振興協議会、地区公民館などで話し合い、共助交通のめざす姿や、どのような仕組みが必要か検討する。
- ② 共助交通に対する支援を行う。

行政

- ① 共助交通について、地域へ助言などを行う。
- ② 地域と連携して、共助交通を検討するにあたり、必要となる経費について財政的支援を行う。（補助金等）
- ③ 地域以外に協力が得られそうな組織・団体の調査（商工会等）を行う。
- ④ 地域が実証実験などを行う際には、情報提供などのサポートをする。
- ⑤ 共助交通に取り組む地域や団体同士が意見交換を行う場を設ける。

4. 暮らしを助け合える元気な地域をみんなで作っていく。

項目1：助け合える地域づくり

地域住民同士の関わりが薄くなり、独居老人や高齢者世帯を見守ることが難しくなっている現状がある。今後も人口減少・少子高齢化が進んでいく中で、自分ごと化会議で話し合われた「交通」を問題意識のきっかけとして、自分にできることは自分自身で取組みながら、必要な時に地域や行政が協力して助け合える元気な地域づくりをしていく。

▶ 町民・地域・行政・民間等の取組み

私たち町民

- ① 普段から、健康に気を配り、体作りを行う。
- ② 積極的にあいさつする。
- ③ 地域内行事やボランティア活動に参加する。
- ④ 毎週、高齢者のサークルで集まる。
- ⑤ 独居老人の話し相手となり、見守りも行うため、空き家等を活用する。
- ⑥ 時々、独居老人や高齢者世帯に訪問し、困りごとを聞いたり、手伝う。
- ⑦ 地域の事を色々話し合ってまとめる。
- ⑧ 共助交通の取組みをきっかけとして、地域住民同士がつながる。
- ⑨ 魅力を探し、広める。

地域

- ① 皆で見守り、手伝えることは手助けする。
- ② 自治会、公民館、地域振興協議会などは、年代に関わらず参加できる地域内行事（祭り、健康教室など）を実施する。
- ③ 地域内で、一人一人に役割を持ってもらう。
- ④ 集落内で、高齢者に交通支援制度の再確認を行う。
- ⑤ 小中学校の通学路の交通安全に、高齢者に参加してもらう。

行政

- ① 独居老人や高齢者世帯に訪問する。
- ② 集落内のまとめ役の方に、支援制度を周知する。
- ③ 社会福祉協議会や行政から、町内や地域内の老人クラブ等に支援を要請し、助言や援助する。
- ④ 高齢者の見回りを行うため、民間と業務提携（無償含む）する。
- ⑤ 出会いの場を増やすイベントや、子どもと高齢者を交えた行事を模索する。

(例：囲碁・将棋・麻雀など)

⑥ 子育て世帯の移住支援・出生支援を充実させる。

4. 付録：アンケート結果

第1回 琴浦自分ごと化会議 アンケート結果

1. 会議開催日時

令和2年10月25日（日）13:30~16:30

2. 回収状況

○会議出席者数：15名 ○アンケート回収数：14部 ⇒回収率：93.3%

3. アンケート集計結果

Q1 第1回の会議に参加してみても良かったか。

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	どちらともいえない	未回答
6人 (42.9%)	6人 (42.9%)	0人	0人	1人 (7.1%)	1人 (7.1%)

Q2 会議に参加しようと思った理由は何ですか。（自由記載） ※一部抜粋

- 自宅にはがきが届き、自分ごと化会議ということでしたので、人ごとにしておくには申し訳ないと思ったから。
- 身内の者が免許返納したことをきっかけに、交通のことを考える機会としたかったです。
- ボランティア精神。
- 子ども達の安全な通学について、考えたいと思ったので。
- 免許返納後の琴浦町（豊かな生活）を考えたいと思った。
- 無作為抽出による回答者で、どのような議論が出てくるのか、それに対して自分や行政がどのように関連して問題解決できるのか興味が出てきたため。
- 大型バス（船上山線）の昼から夕方にかけての便の乗客が、0~2人のことが多いので、今後どうなるのかと自分ごとのように考えていた。

Q3-1 今日の会議の中で、琴浦町について新たな発見や気づきはありましたか。

ある	ない	未回答
11人 (78.6%)	2人 (14.3%)	1人 (7.1%)

Q3-2 Q3-1の理由（自由記載） ※一部抜粋

【テーマに関する意見】

- かなりの町予算が交通施策に使用されていることがわかりました。
- 企業・病院への協力要請はされましたか？
- 交通機関への関心が深まった。乗ってみます。
- 行政として共助交通への関わりの意思（支援の形はこれから）の確認ができた。
- 自分とは違った目線で考える方々の意見で気づかされる事がたくさんあった。（JRとの連携など）

現在の実態をデータとして認識できた。

- バス代 100 円を払って、「安いね」と言っていたけど 1 人 1 乗車あたりの運行に係る経費として 1,387 円もかかっていることにびっくり。

Q4 あなたがこれから会議で議論していくテーマについて、日ごろの生活の中で感じている琴浦町の「良い点（プラスなところ）」「悪い点（マイナスなところ）」について、一言で記入してください。

※ アンケート内容及び第 1 回琴浦自分ごと化会議議論中のメモから参照。同趣旨のものは抜粋。

「良い点」(プラスなところ)	「悪い点」(マイナスなところ)
<p>★全体的なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○住民の意見を取り入れて、行政の改善をして頂けること ○利用者が少ないのに、よく運行している。 ○赤字でも継続している。 ○琴浦町の財政の中で、丁寧に地域交通をカバーしている。 ○琴浦町独自の共助交通の対策が出来ている。 <p>★区間・ルートなど利便性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○下校時間に合わせて帰れる。 ○バス停に限定せず、どこからでも上下車できること。 ○JR 赤碕駅にタクシー乗り場（小屋）がある。 ○各筋で路線がある。 ○待てばバスで出かけられる。 <p>★料金について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○空白地域には、タクシー代助成制度がある。 ○バスは、1 回の利用料金が低い。任意の場所で乗り降りできる。 	<p>★全体的なこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○無駄が多い ○今後思い通りに移動が出来なくなる。空のバスが走っているのは考えもの。 ○赤字を改善しようとする施策が遅い（長年赤字） ○乗車人数が 0~2 人なのに、なぜ走っているのか。どうにかしなければならない。 ○集落単位での交通共助に対する取組が遅れている。 ○維持費もかさむであろうバスを運行し続けている。 ○各筋で路線があるため、費用がかさんでいる。 <p>★区間・ルートなど利便性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○便数が少ない。時刻が合わない。運賃が安いことが不安。 ○JR が遅い時間帯までない。また、全ての時間帯にバスがリンクしていない。 ○今の時期のみだが、タクシーの終業時間が早い。予約できない。 ○バスは、すべての地区を巡回できていない。 ○バス停（診療所前）が少なくなった。 ○バスと JR の路線が連動していない。 ○赤碕地区、東伯地区とも、南北に複数の路線があり、ループしていないので効率が良くない。 ○高齢者にとってはバス停が遠い。 <p>★委託について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○業者に委託したところ。 ○補助に対する効果が薄い。○事業者確保のために

	<p>大赤字</p> <p>★スクールバスについて</p> <p>○スクールバスの利用方法がおかしい。住民のためになっているか。</p> <p>★料金について</p> <p>○区間に関係なく、1乗車100円は…（定期券の購入まで至らないため</p>
--	--

Q5 次回以降の会議に向けての要望や今日の感想など、ご自由に記入してください。

（自由記載）一部抜粋

- そもそも不要では。
- 共助交通を中心に今後の施策を考えて頂きたい。
- 委託費の内訳を開示してほしい。
- PTAのスクールバスへの要望はよくわかるが、別の会の方がいいと感じる。
- スクールバスが維持できるよう次回も要望は続けたい。
- 自助をどこまで求めるか（年少者・高齢者・健常者・障がい者）
- 共助のメリット・デメリット（ウーバータクシー？）
- 自動運転の可能性（道路・通信・法の整備：何をどう運ぶか。）
- 小型の自動車がいいので、2～3人でも気軽に買い物に行けたらいいなと高齢者仲間で話している。

第2回 琴浦自分ごと化会議 アンケート結果

1. 会議開催日時

令和2年11月21日(土) 13:30~16:30

2. 回収状況

○会議出席者数：17名 ○アンケート回収数：16部 ⇒回収率：94.1%

3. アンケート集計結果

Q1 第2回の会議に参加してみてもいいか。 (n=16)

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	どちらともいえない	未回答
3人 (18.8%)	11人 (68.8%)	1人 (6.3%)	0人	1人 (6.3%)	0人

Q2 町の交通施策についての説明(企画政策課)はいかがでしたか。(n=16)

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	どちらともいえない	未回答
1人 (6.3%)	11人 (68.8%)	1人 (6.3%)	0人	3人 (18.8%)	0人

Q3 バス事業の現状についての説明(日の丸自動車)はいかがでしたか。(n=16)

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	どちらともいえない	未回答
4人 (25.0%)	8人 (50.0%)	0人	0人	4人 (25.0%)	0人

Q4 タクシー事業の現状についての説明(日本交通)はいかがでしたか。(n=16)

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	どちらともいえない	未回答
4人 (25.0%)	8人 (50.0%)	1人 (6.3%)	0人	3人 (18.8%)	0人

Q5 交通再編案についての説明(企画政策課)はいかがでしたか。(n=16)

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	どちらともいえない	未回答
1人 (6.3%)	4人 (25.0%)	4人 (25.0%)	0人	6人 (37.5%)	1人 (6.3%)

Q6 次回以降の会議に向けての要望や今日の感想など、ご自由に記入してください。(自由記載)

- 朝晩のすき間は、共助交通が絶対に必要である。各地域事情はあると思うが、1つの指針・推進策・手段を示してほしい。
- 令和4年度にスタートというリミットはあるでしょうが、大変重要な課題であり、時間をもう少しかけてみたらどうか。それは、町民の意識が良く見えてこない。頭上で議論されているような気がします。いずれにしても、バス・タクシー業者に頼ることは不可能と思います。自治体独自で考えていくしかないと思います。そのための財政的な問題は、大胆に町民に求めるべき。
- 町営バスの利用者の皆さんの声を取り入れて頂きたい。交通弱者の方は、バスがなくなる(減る)のを大変困られると考えます。費用がかさんでも、可能な限り維持していただきたい。
- 町民の意見から作り上げていくのではなかったのか?との疑問が残る。
- タクシーは台数が少なく、時間が掛かるとか予約取れないということですが、利用する側の移動を守るための小型バス・ワゴン車などの数人での運行が必要かと思いました。
- 現状認識が深まるとともに、将来への不安が深まりました。バス事業やタクシー事業の継続を考えていきたいと感じました。
- 今年も来年も、同じような議論の繰り返しになると思われる。もっと根本的な方策を考え、先の年まで運用することを考えてください。
- 方向は理解。もう少し具体的な話を聞きたかった。

第3回 琴浦自分ごと化会議 アンケート結果

1. 会議開催日時

令和2年12月13日(日) 13:30~16:30

2. 回収状況

○会議出席者数：17名 ○アンケート回収数：17部 ⇒回収率：100%

3. アンケート集計結果

Q1 第3回の会議に参加してみていかがでしたか。(n=17)

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	どちらともいえない	未回答
5人 (29.4%)	9人 (52.9%)	0人	0人	1人 (5.9%)	2人 (11.8%)

Q2 ナビゲーターの話題提供に対する感想等をご記入ください。(自由記載)

- 遠方より大刀洗町長に来ていただき、共助交通の取り組みについて、大変参考になった。
- うまく住民意見を引き出していた？
- 大刀洗町での活動が把握できた。全国どこでも同様の課題があると感じた。
- 共助交通と公共交通とを一緒に検討するには、時間が足りない。分けて検討しないと先へも進めない。
- 同じような課題は全国山積ですね。
- 大刀洗町は10年前から取り組んで今がある。琴浦町でも、息の長い取り組みが必要では。
- 上中村線は大刀洗町の取組も参考にならなくなっていると思う。ボランティアタクシー型が良いと思う(有料)
- 大刀洗町の取組が聞いて良かったです。コミュニティをうまく活用しておられ、本当に困っている人たちへ手を差し出しておられます。これから、益々人と人がつながることが大切であると改めて感じました。
- 大刀洗町の新たな考え方のバス無料運行に感心した。琴浦町も、高齢化が進んでいくので、見習ってほしい。
- 声とかも聞き取りやすかったですし、よかったです。
- 的確に話題提供いただき、考えをまとめやすい。
- 発言を否定するのではなく、真摯に聞いて頂いており、話題提供がわかりやすい。
- わかりやすい言葉で丁寧に話していただき、参考になりました。行政の改善は易しくなく、一度に解決できるものではないということがよくわかりました。

Q3 この会議を通して、「地域のつながり、結びつき」について、感じたことや、大切だと思うことなど、あなたのご意見がありましたら自由にご記入ください。(自由記載)

- 中山間地と人口問題についての議論は大切な議論ですが、今回の交通の課題と一緒にして考えるには時間が足りないと思います。

- 子どもの送迎（部活動・スポ少等）は、顔が見えるので助け合っている。これが近所に住む人たちを乗せたり…につながれば 1 番いいのかもしれない。
- 地域の集まりへの顔出しや行事参加（強制的に？1 日 1 回の声かけ 朝と夕）
- 普段から自分の事だけでなく、地域のつながりを考えながらだと、とても難しいと思いました。校区での声掛けで小さな結びつきがあるといいです。「買い物行くよ」で集まってくだされば、相乗りで行きますよ！
- 今まで以上につながりが必要となってきた。地域コミュニティをどう構築していけばいいのか。
- この問題を突き詰めて考えれば、行政の話とか大きな面から話し合わなければ、個々の話では不十分だと思います。
- 60 歳以上で個人ですがボランティアはしたいのですが、自信・体力・知力が減少低下して、責任を持ちかね不安です。町がやっても、今まで校区でやっていたことはやめないことが大切だと思った。
- 共助交通には「地域のつながり、結びつき」が重要。決して一人でできることではない。
- 継続的に実施していくことが重要であり、世代を超えて話し合うことが必要では。
- 地域のつながり、結びつきに関心がある方もいれば、関心がない人もあると思います。琴浦町が暮らしやすい町になっていくことを希望します。

Q4 次回の琴浦自分ごと化会議に向けての要望や、今日の会議で印象に残ったことなど、ご自由に記入してください。（自由記載）

- 私たちのように、中山間地域で暮らすものの気持ちは、便利な町に住んでおられる方には、理解しづらいと思います。例えば、今後、小中学校が合併することになり、校舎の建設を古布庄や以西に行うとなれば、町に近い人は大反対されるでしょう。私たちは、今までそのような気持ちを抑えてきました。町民の皆様が同じ気持ちになってみないと、こうした問題の解決には誰かが我慢をするということが起こるということを考えてみてほしいです。
- 本当に自由な移動手段を無くしたときに、またそのとき一人だった場合、どのように対応するのかよくわかっていない。
- チップ制
- 出生率の現状
- 他の委員が言っていたように、スマホにより送迎を希望する人を知ることができるというシステムができるのではと思う。
- 他の委員が言っていたチップ制を導入する案などは、現実的に難しいと感じる。
- 子どものこと、高齢者のこと、新生児のことなど、全ての町民の事を考えながらこれからの交通について考えることは、今後の地域づくりにつながるいい会議と思う。

第4回 琴浦自分ごと化会議 アンケート結果

1. 会議開催日時

令和3年2月6日（土）13：30～16：30

2. 回収状況

○会議出席者数：16名 ○アンケート回収数：16部 ⇒回収率：100%

3. アンケート集計結果

Q1 第4回の会議に参加してみてもいかがでしたか。(n=16)

とても良かった	良かった	あまり良くなかった	良くなかった	どちらともいえない	未回答
2人 (12.5%)	7人 (43.8%)	5人 (31.3%)	1人 (6.3%)	0人	1人 (6.3%)

Q2 自分ごと化会議に参加した前後で、あなたの意識や行動に変化はありましたか。(低いから高いまで計5段階) (n=16)

Q2-1 税金の使い方への関心 (参加前)

低い				高い	未回答
3人 (18.8%)	2人 (12.5%)	9人 (56.3%)	2人 (12.5%)	0人	0人

Q2-1 税金の使い方への関心 (参加後)

低い				高い	未回答
0人	0人	6人 (37.5%)	5人 (31.3%)	5人 (31.3%)	0人

Q2-2 行政や議会の情報への関心度 (広報紙・HP や議会の傍聴等) (参加前)

低い				高い	未回答
3人 (18.8%)	2人 (12.5%)	7人 (43.8%)	3人 (18.8%)	1人 (6.3%)	0人

Q2-2 行政や議会の情報への関心度 (広報紙・HP や議会の傍聴等) (参加後)

低い				高い	未回答
0人	0人	5人 (31.3%)	7人 (43.8%)	4人 (25.0%)	0人

Q2-3 自治会、ボランティア等地域づくりに関わる集まりに参加する頻度（参加前）

低い				高い	未回答
0人	1人 (6.3%)	5人 (31.3%)	6人 (37.5%)	4人 (25.0%)	0人

Q2-3 自治会、ボランティア等地域づくりに関わる集まりに参加する頻度（参加後）

低い				高い	未回答
0人	1人 (6.3%)	4人 (25.0%)	7人 (43.8%)	4人 (25.0%)	0人

Q3 自分ごと化会議に参加したことで、意識に変化はありましたか。(n=16)

変わった	変わっていない	わからない	未回答
11人 (68.8%)	4人 (25.0%)	1人 (6.3%)	0人

【具体的に变化した内容】（自由記載）

- 行政（政策・施策）のあり方に対する関心が高まった。
- バスとすれ違う時、気になるようになった。（以前は気に留めなかった）
- 「共助交通：に関して知識が増えた。将来への材料になった。
- 地域の困りごと解決のために、積極的に活動する意欲がわいてきた。
- 何事もその立場に立って考えるようにしたい
- 会議後、もう少し時間が過ぎなければ、評価できない。

Q4 自分ごと化会議に参加したことで、行動に変化はありましたか。(n=16)

変わった	これから変える	変わっていない	わからない	未回答
3人 (18.8%)	6人 (37.5%)	5人 (31.3%)	2人 (12.5%)	0人

【具体的に变化した内容】（自由記載）

- 行政について、関心を持つようになった。
- 移動する際に、交通手段の選択肢を広げるようになった。（バス、JR等）
- 会議の内容について、友人と意見を出して話し合っている。
- 公共交通に対して、もう少し関心を強く持ちたい。
- ボランティアについて考えていきたい。
- 知人をボランティア活動に誘いたいと思っている。

Q5 今回のテーマ「地域交通のあり方」は住民が考える内容として、どう思われるか。(n=16)

とても良かった	まあまあ良かった	どちらともいえない	あまり良くなかった	まったく良くなかった(他のテーマがよい)	その他
10人 (62.5%)	5人 (31.3%)	0人	0人	0人	1人 (6.3%)
未回答					
0人					

【具体的な感想】(自由記載)

- 無作為抽出での参加者が思ったよりも少なく、想像していた上に、「地域交通」は、町民には関心のあることではないと思った。

Q6 無作為抽出の手法を使った議論をしていくやり方についてどう思いますか。(n=16)

必要だと思う	必要だと思わない	どちらともいえない	未回答
11人 (68.8%)	0人	5人 (31.3%)	0人

Q7 今後、住民同士で、町の重要課題について議論・意見交換し、町へ改善提案できる場があれば参加したいと思いませんか。(n=16)

思う	思わない	どちらともいえない	未回答
11人 (68.8%)	1人 (6.3%)	4人 (25.0%)	0人

Q8 全体を通じた感想やコメント(自由記載)

- 町へ改善提案した場合に、最終に判断して企画・立案・実施するのは担当部署のため、今後も参加したいかどうかどちらとも言えない。
- 住民から行政へ、行政から住民への問いかけというスタイルは、どうあるべきかもう一つよくわからない。ケースバイケースの進め方なのか、決まったやり方があるのか。
- 会議に参加させてもらったが、有意義な意見を出すこともなく、貢献することができなかったことが残念です。
- 自分の知らないことが知れたので、行動に移したい。
- 他の委員の意見を聞いて良かった。

Q9 あなたは、自分ごと化会議に参加する以前に、町役場とどの程度関わりがありましたか。

(n=16)

ほとんど行ったことがなかった（たまに住民票等を取りに行く程度）	年に数回は行っていた（職員とある程度話をする）	頻繁に行っていた	その他	未回答
6人 (37.5%)	7人 (43.8%)	2人 (12.5%)	1人 (6.3%)	0人

Q10 選挙の投票に行きますか。(n=16)

必ず行っている	だいたい行っている	ほとんど行かない	行ったことがない	未回答
14人 (87.5%)	2人 (12.5%)	0人	0人	0人

Q11 琴浦町の議会の傍聴に行きますか。(n=16)

必ず行っている	だいたい行っている	ほとんど行かない	行ったことがない	未回答
0人	0人	3人 (18.8%)	13人 (81.3%)	0人

Q12 お住いの地域の自治会に加入していますか。(n=16)

加入している	加入していない	加入しているかどうかわからない	住んでいる地域に自治会・町内会がない	未回答
15人 (93.8%)	0人	1人 (6.3%)	0人	0人

Q13 琴浦町をより住みやすくするために、特に誰が主体的に行動することが必要だと思いますか。(n=16)

住民ひとりひとり	地域全体（自治会／町内会含む）	地域の行政（役所）	地域の政治（議会）	国の行政（政府）	国政
9人 (12.5%)	6人 (43.8%)	1人 (31.3%)	0人	0人	0人
その他	未回答				
0人	0人				

地域交通に関するアンケート結果

町では、これからも地域で暮らし続けるために必要な交通のあり方を検討していく上で、「日中の交通手段」と「タクシー事業の存続」について検討しており、参考とするため、本会議参加者にアンケートを実施した。

回答 11 名（委員 18 名）

問1 日中の交通手段について

町営バスは、通学の需要もあり平日の朝と夕方に利用者が集中しています。一方、高齢者が通院や買い物のために移動する日中は、利用者が少なく、空車で運行する便も多くあります。会議でも、日中はバスではなくタクシーや共助交通により、小型車両が予約に応じて玄関の近くまで送迎する交通に切り替えた方が効率的であるとの意見がありました。日中の交通のあり方について、制度面や利用料金の視点から委員のご意見をお聞かせください。

意見のまとめ

- 回答した委員の全員が、日中の交通手段は必要と考えている。
- バス車両での運行は非効率であり、小型車両よる運行がよいとの意見。
- 運行の形態については、共助交通での運行を希望する意見が多いが、町営タクシー事業の実施を望む意見も同程度ある。
- 料金は片道 100 円～通常のタクシー料金まで様々な意見があるが、安すぎる料金設定はすべきではないとの意見がある。

各委員の個別意見

- 各便当たりの平均乗車数を見ると野井倉線、琴浦海岸線以外は日中の運行を止め、タクシー、共助交通に切り替えの方がよい。料金は、タクシーについては 1 割程度の負担で残りは町の補助、共助交通であれば距離に応じて 500 円～2,500 円。
- 車を運転できない人のため日中の交通手段をなくすのはよくないが、利用料金はとるべきだと思う。安すぎ、高すぎはよくない。利用しやすい料金設定がよい。共助交通の場合でも運転する側にとってもその方がよい。プラスポイントなど特典が加えることができれば、継続するメリットになる。提供側にもメリットがある方がよい。
- 利用者ごとに週単位の送迎スケジュールを作成して運行する。利用料金は 1 回あたり 1,000 円程度。
- 利用者の少ない日中にバスを運行するのはもったいない。予約制のタクシーや共助交通を中心に考える。まちづくりセンターに予約センターを持たせる。利用料金は、実プラスアルファとして 50 円～100 円。
- 高齢者にやさしい交通が必要。電話予約より週に数回の定期運行がよい。タクシーより安く、乗りやすい環境が必要。ドアツードア型なら予約制で運行する。
- 町営バスは限界。税金のムダ遣い。廃止の方向がよいと思っている。町営タクシーの方が現実的と考える。通常のタクシー料金と同額とすべき。削減した経費を少子化対策に回す。スクールバスは必要。
- 高齢者は、バス停までの移動も難しくなってくる。しかし、弱者を切り捨てることがあってはならない。タクシーは助成があっても自己負担が大きい。地域での共助交通で運営する。
- 利用者のないサービスは止めるべき。必要なサービスは続けるべき。自家用車で移動ができるので、会議で話を聞いても実感がもてなかった。共助交通に対してできることは積極的に参加する。
- 共助交通に賛成。タクシーは高すぎる。運転手不足もあり難しい。野井倉→浦安で片道 500 円、往復 1,000 円。地区内の移動は 100 円。
- 燃料をまいて走っているようなもので、新しい仕組みをつくることに賛成。若桜町の町営タクシーを参考にすべき事例と考える。
- 高齢者はまとめて買い物をするので行きはバス停まで歩くが、帰りは玄関前まで送迎がよい。江府町は町営タクシーになった。片道 300 円、往復 600 円。安すぎても利用しづらい。

問2 タクシーについて

第2回自分ごと化会議にてタクシー事業者より説明がありましたが、町内のタクシーは、赤字が継続し営業時間や運転台数が縮小しています。このままでは近い将来、タクシー営業所が閉鎖となることが想定されます。現在、町では交通空白地にお住まいの方や障がいをお持ちの方に対してタクシー助成を行い、通院や日常生活に必要な移動を支援しています。また、早朝や夜間はタクシーのほかに移動手段がない実態もあります。

タクシーは、今後も地域交通として必要であるのか、委員のご意見をお聞かせください。必要であるとした場合、タクシーの継続にむけて支援するために町ではどのような取り組みが考えられますか。なお、会議ではタクシー事業者が町営バス事業を受注することで、朝夕はバスを運転し、日中はタクシーを運転するといったドライバーの有効活用と採算性向上を図っている事例が紹介されました。

意見のまとめ

- タクシー事業は地域交通として必要との認識であるが、赤字を解消することが重要。
- タクシー利用者に対する助成制度の導入を求める意見は多い。
- タクシー事業者に町営バスやデマンド交通を委託することで有効活用を図ることに賛成する意見が多い。
- 民間でのタクシー事業は不要であり、共助交通や町営タクシーとすべきとの意見もある。

各委員の個別意見

- 琴浦町で一つはタクシー営業所を残して欲しい。 買い物や通院に限定して利用補助金を交付する。タクシー事業とバス事業が両方可能であればよい。
- タクシーの赤字を解消しなければ継続は難しい。効率性、有効活用のキーワードがポイントになる。
- タクシー会社に利用者送迎を委託。 車や免許のない高齢者に対し、割引制度を導入する。
- 具体的な利用実態が分からないので何とも言えない。タクシー事業が赤字であれば、無理に継続はできない。今後は共助交通等に切り替え、早朝や夜間の利用は予約制のタクシーを利用する。
- 町営タクシーを実施する。 交通手段がなくなり助成も不要。町営バスのように無駄な運行がなくなる。
- 地域交通として必要であるが、利用する機会は少ないのが現状。 事例のようにタクシー事業者がバス事業を受注することでドライバーの有効活用と採算性向上を図ってもらう。 タクシー事業者の採算が悪化することは明らかです。家族>地域>行政で移動を負担する。新しいことに挑戦してほしい。
- タクシーは不要。共助交通、デマンド交通で代用する。 利用料金はタクシーの半額程度。
- 新たなスタイルをつくる。ボランティアは成り立たない。行政が主体で組み立てていくしか方法がないと思います。
- 会議で紹介されたタクシー事業者が町営バス事業を受注することで、ドライバーの有効活用を図ることについて賛成する。

「琴浦自分ごと化会議」会議参加者

<琴浦自分ごと化会議委員>

青木	哲哉	生田	明博	井上	耐子	川上	八千恵
川中	光雄	河本	貴義	北村	真吾	小泉	傑
高力	英明	高力	政寿	盛山	明	豊嶋	美智恵
中井	圭太	野口	裕子	藤井	巳貴雄	松井	等
山下	亜希子	湯本	孝行				

※ 五十音順、敬称略